

様々な表現を楽しむための環境の工夫 ～日々の保育のあそびから～

宜野湾市立普天間第二幼稚園教諭 米城 瞳

目 次

I	主題設定理由	51
II	研究のねらい	51
III	研究仮説	51
IV	研究内容	51
1	「表現」の捉え方	52
2	「感性」の捉え方	52
(1)	遊びの中で育つ表現	52
(2)	表現の喜びと楽しさを育てる	52
(3)	からだによる表現	52
(4)	言葉による表現	52
(5)	音楽による表現	53
(6)	造詣による表現	53
(7)	演じる喜びと表現	53
3	領域「表現」における道德教育	53
4	幼児理解について	53
(1)	幼児を理解する	53
(2)	幼児の内面を捉える	54
5	援助を理解するにあたっての 教師の心がまえ	54
(1)	幼児に対する信頼と愛情を持つ	54
(2)	幼児の立場に近づく	54
(3)	幼児から学ぶ	54
(4)	確かな幼児観, 発達観, 教育観を確立する	54
(5)	教師自身の理解に努める	54
6	幼児を理解するにあたっての基本的留意点	54
(1)	総合的にとらえる	54
(2)	変容をとらえる	54
(3)	集団の中の個人としてとらえる	55
(4)	幼児の動き, 言語をとらえる	55
V	研究構想図	56
VI	実践研究(保育指導案)	57~58
	実践例	59~65
VII	研究の成果と今後の課題	66
1	研究の成果	66
2	今後の課題	66
	終わりに	66
	<参考文献・主な引用文献>	66

研究主題

様々な表現を楽しむための環境の工夫 ～日々の保育のあそびから～

普天間第二幼稚園教諭 米城 瞳

I 主題設定理由

現代社会は、科学技術の発展によりものは豊かになった反面心の貧しさが指摘されている。

ものの豊かさから心の豊かさが求めている学校教育に問われているものはこれまでの画一的な教育から子ども一人一人の個性を伸ばす教育への転換であると考えられる。

近年の核家族化、少子高齢化、都市化、といった社会の変化は幼稚園教育に新たな役割を求めている。教育要領、園目標、例えば、地域の子育て支援や幼児教育センター的役割を果たすことが期待されるなど、幼稚園は様々な実践的課題に向け積極的に取り組んでいるところである。

ちなみに、幼児期は身体が著しく発達するとともに運動機能が急速に発達する時期であり、幼児が自分の生活経験によって親しんだ具体的なものを手掛かりにしながら、身の回りでおきる出来事を見たり、聞いたり、触れたり、それに関わったりしながら自分自身のイメージを形成し、それに基づいて物事を受け止めている時期なのである。

このような発達の特徴から、子ども達の園生活の様子をとらえると、実に様々な表現活動が行われている。園庭で水やりういしながら「どんな花が咲くか楽しみだね。」「お水を飲んでうれしがっているかもね。」など、共通の話題で会話がはずんだり、音楽を聴いて一緒に歌ったり、自然に体が動いたりする。また思いや願いを絵画表現で楽しむ子もいるが、反面乱暴な言葉づかいで粗暴な態度をとる子もいる。それぞれの生活経験や性格によって、興味関心や表現方法は異なってくる。

幼児一人一人の行動（ことば、動き、表情など）をみることによって、その幼児が何を感じ、何を考え、何を望んでいるのかを幼児の立場になって、幼児の心の動きを共感的にとらえるこ

とが大切である。そのためには、日常の園生活の中における遊びへの取り組み（どんなもの、どんなことに興味を示すか、どんなふうにしてあそんでいるのか、友だち関係はどうか）をよく観察し、その子にあった指導を工夫することが必要になってくる。

子ども達のイメージを豊かにするには、教師はどのような援助や環境の工夫が必要か、更に幼児が感じたことや考えた事を、自分なりに素直に表現できるようになるには、どのような手だてが必要か、考え本テーマを設定した。

II 研究のねらい

幼児にとってふさわしい活動の流れはあそびである。そのあそびの中から生活の仕方をしり、生活行動を身につけると共に、自らの生活をつくり出し、人間らしく生きていくための自立と共存と創造の喜びを体得していく生活が展開されるので表現を豊かにするためには環境構成や援助のあり方を考える。

III 研究仮説

幼児が園生活をする中で、教師との信頼関係、興味や関心に基づいた体験が得られる生活、友だちと十分にかかわって展開される生活に幼児の動き、表情、言葉かけなどをすることにより、表現活動は豊かになるであろう。

IV 研究内容

1 「表現」の捉え方

私たちが表現として捉える活動は、子ども達にとって自分の欲求に促され、それを満たそうとする活動であり、他に何かを訴えたり、伝えようとする活動である。べつの面から考えれば想像を広げて楽しむ行為であったり、自分の身体の動きや音声、色や形や音の響きなどで遊ぶ行為であったり、他に共感を求める行為であっ

たりする。表現は毎日の生活を豊かにする文化である。周りの大人や友だちとのつながりをつくる営みでもある。「表現」はまとまりの一つとして位置づけられ、外見だけで成り立つものではない。

幼児教育全体の共通の目標として、その心の育ちとして表われるもの、表すもの、伝え合うものとして見ていこうとするのが領域「表現」の基本である。表現からみてまず大切な目のつけどころは、子ども達の興味、関心、期待、意欲である。

2 「感性」の捉え方

「価値あるものに気づく感覚」であり人間には視覚（見る）、聴覚（聞く）、嗅覚（臭う）、味覚（味わう）、触覚（触れる）といったものがあり、モノやコトに価値を認める。あるいは価値に気づく、心のはたらきである。

「体験が感性を育む」あるいは「体験を通して感性が育まれる」

「表現が感性を育む」あるいは「表現によって感性が育まれる」

と片岡徳雄、徳島大学教授の言葉である。

体験と表現と感性は、密接な関係がある。

感性をひきだす心得として、子ども達の五感（子どもの手足や体を動かせること）を大切に、子どもの感性に訴える（好き、きれい、うれしい、おもしろい）など、「おや」「はてな」「おもしろい」、地域社会での体験を大事に、子どものつぶやきを聞きのがさない、支え、信じあう雰囲気のがのびのびと様々な感性が発見されると

（1）遊びの中で育つ表現

園に行けば友だちもいる。友だちと遊べる友だちと遊べるし自分の家にはまいたくさんの遊具がある。

子ども達にとって幼稚園はとてもうれしい場所、楽しい遊び場である。子どもは、常にまわりを見つめ、つまわりの変化に自分なりに力を発揮し、自分自身の力で成長しようと努力している。まわりと自らの関係をつくりながら真似したり、試したり、工夫したりしていく。

自分を確かめながら喜怒哀楽を表現し育って

いくとも言える。また遊びが楽しいとくり返すことが多い。こした育ちは興味、関心、が基になり、環境が重要な意味を持つ。一人一人が自己表現していかれるような環境への配慮が必要である。

こどもは、いつも伝えたいことと語りたことなど思いを抱いているし、なかなかうまく表現できないことが多い。心の内面を表現できるようなきっかけや場の工夫と、受け止めていく教師の姿勢が大切になってくる。

（2）表現の喜びと楽しさを育てる

子ども達の表現意欲は生活や遊びと密着して生まれるので生活を切り離しては考えられない。保育の場でわき上がる多様な生活感情、それにとともなう言葉や行為、行動は子ども自身の意欲に支えられたごく自然な心の表われである。

教師は子どもの心の変容にともない表していく振り、表情、言葉などをとらえて行かなくてはならない。

表現の喜び、楽しさは子どもと教師の信頼関係の中で育っていく部分がある。そのことを心にとめて、子どもとかかわり方も必要である。

（3）からだによる表現

からだによる表現は、心をともなって全身的な表現である。日頃子どもは、うれしいとじっとしていられずまずからだで表現を表す。

保育の場においても、こうした快の心を育てつつ表現力を引き出していく指導も大切になってくる。その子なりの感じ方、考え方、表し方ができるような場や援助がのぞまれる。

（4）言葉による表現

子どもと教師が言葉を交わしてる姿は、ほほえましい美しい光景である。それは、言葉や身振りによる心の交流であり、またおたがいの心の内を出し合う表現としての営みでもある。

子ども一人一人の思いや気づきなど様子をとらえ、人や物との関わり方なども確かめてみることである。

子どもの目線に立ってとらえることも大切である。

(5) 音楽による表現

音楽は、人々の心をゆさぶり喜びを与えてくれる。時には、心の支えにもなるものである。したがって、人間の営みに欠くことのできない心の糧なのである。

幼児の音楽活動は、園の生活や遊びの中から生まれ、園の生活を一層豊かにしていく心から楽しめる遊びである。

(6) 造形による表現

造形による表現とは自分の気持ちを素材にたくし置きかえていく創造活動である。つまり、色や形などで心の内面を具体的に表す活動である。さらに、自分の気持ちを人に伝えたり、受け入れてもらったりできる喜びがともなう活動なのである。

その活動のきっかけは、園の生活や遊びにもなつて生まれる生活感情、心の動きがされるような感動、さらに身近に表したくなるような素材の存在などが主である。

しかしその実現には、子どもが自由に表現できる場や時間など、心のゆとり、開放感などが必要である。

(7) 演じる喜びと表現

保育の場で様々なごっこが展開されている。子どもはごっこが好きである。内容は身近な家庭生活や社会生活のし方を模倣しながら空想の世界を作り上げていく。見通しをもって遊ぶと言うよりも都合の良いように流動的に内容を変えて楽しんでいく。しかし、その過程では役割が果たすべき約束ごとなどを必要に応じて生み出していきし友だちと心を交わしながら新たな表現方法に気づき、そこに満足感を得て遊びが進められていく。

3 領域「表現」における道徳教育

幼稚園は、幼児の豊かな感性や情操を育て、浮かんイメージなどを表現する意欲や創造性の育成を目指して、自分の感動、感情を素直に出して、素朴に表現することの大切さを指導しなければならない。個性的な自我の主張をもつと認めてやり、人まねでない態度、自信をもつ

て表現する態度などを育てていきたいものです。

そのためには友だちの失敗を笑ったり、けなしたりする態度を厳しくいましめ、様々な表現があることを配慮しなければならない。そして、このような中で伝え合う喜びをもって感性を養い、表現能力を高めてやるのが大切と思われる。

道徳教育はそのような個性の発達に対して側面から援助してやり、向上心と努力、創意と工夫、自己表現の喜びなどについて、幼児にわかる方法で指導しなければならない。そこで、以下の四点を道徳教育の視点として押さえておきたい。

- (1) 自分なりに表現を自信をもって取り組みませ、ともに認め合い、尊重し合える雰囲気づくりをすること
- (2) 自分の作品、用具などを大切に扱い、粗末にさせないようにさせること
- (3) 心を打つ物語や楽しい絵本、美しい音楽などに興味をもたせて、それらを楽しむように仕向けること
- (4) 古くから伝わる伝承行事や郷土の文化に関心をもたせ、それらに親しませること

正しい自我の芽生えを助けてやるために、自信をもたせることが何よりである。また、用具を大切に扱い、終わった後には、片付けられるように仕向けてやることは、集団生活を過ごすうえでは大切な視点だと考えたい。

4 幼児理解について

幼児の育ちを見つめながら、幼児を正しく理解し援助していくことが大切である。園生活の遊びへの取り組み方で何に興味を示し、どんなふうに遊んでいるか、友だち関係はどうか、子どもとともに考えたい。

(1) 幼児を理解する

一人一人の幼児の行動(言語、動き、表情)をみることによって、幼児が何を考え、何を望んでいるかを幼児の立場になって幼児の心の動きをとらえる。そのためには、遊びへの取り組み(どんなもの、どんなこと、どんなふう、友だち関係はどうか)よく観察する。

(2) 幼児の内面をとらえる

幼児の心の内面の動き（意欲、充実感、イメージ、感動、幼児なりの発見や工夫など）をとらえる。幼児の言葉、動き、表情などを見のがさず、聞きもらさず、その幼児の気持ちに近づき、からだで心でしっかりと受けとめてやる。

幼児期はすべてにわたって、個人差がい著しい時期である。活動している様子を見ると、同じようにやっているように見えるが、一人一人を見つめると決して同じでなく、幼児の意識にはかなりの違いが多い。一人一人の幼児を理解する。

5 幼児を理解するにあたっての教師の心がまえ

「幼児を理解する」ということは、実にむずかしいことである。教師にとって、一生取り組んでも果たし得ない課題であると思う。

(1) 幼児にたいする信頼と愛情を持つ

教師も人間とのつき会いであり、心と心のつき会いである。幼児に対する信頼と愛情を持つことは、努力であり、この努力が幼児の心を開かせ、教師と幼児を可能にすることができるのである。

(2) 幼児の立場に近づく

幼児がとっている行動は、大人の目から見ると幼稚な動きであるが、幼児はそれなりの理由がある。幼児の気持ちになってみるのが大切である。

(3) 幼児から学ぶ

日々の保育活動において、幼児に直接かかわる中で幼児から学ぶという姿勢が大切である。

(4) 確かな幼児観、発達観、教育観を確立する

幼児についてどう考えるかという「幼児観」幼児の本当の発達はどのようなものであるかという「発達観」教師が幼児にどう働きかけ、どの方向に伸ばしていったらよいのかという「教育観」によって幼児の理解のし方がまったく異

なってしまう。

教師は、幼稚園教育の意義や特質をしっかりとふまえて、常に誤りのない確かな幼児観、発達観、教育観の確立に努めなければならない。

(5) 教師自身の理解に努める

教師自身、個性や感情を持った人間であるから、教師のフィルターで幼児を理解してしまう傾向がある。自分のフィルターはどんな色であるか、自分の性格や長所や短所、物の見方や考え方などについて自分自身に反省することが大切である。

6 幼児を理解するための基本的留意点

幼児の行動やその背景をとらえることの基本的留意事項として、次のようなことが考えられる。一つは総合的にとらえる、二つは変容をとらえる、三つは集団の中の個人として、四つは幼児の動き、表情、言語をとらえる、五つは幼児を取りまく環境をとらえることである。

(1) 総合的にとらえる

○いろいろな場面で

幼児が自ら行う経験や活動、学級全体で行う経験や活動などいろいろな面でいろいろな活動にいる様子をとらえる

○いろいろな視点

身体的、知的、感情的、社会的など様々な視点から一人一人の幼児の特徴や発達の姿をとらえる必要がある。

(2) 変容をとらえる

○観点を明確にしてとらえる

一人一人の幼児に理解を深めたいところに観点を定め、とらえていく必要がある。感情、社会性、言語、友だち関係、運動能力の中からひとつ、変容の様子をとらえていく必要がある。

○変容のきっかけをとらえる

変容の見られた時は教師が、「認め」「励まし言葉」「ほめる」この三点をしっかりと心がける。幼児によって性格的なものや行動のくせなど、すぐには変容をみせない場合がある。長期にわたってみていくことが必要である。

(3) 集団の中の個人としてとらえる

幼児が友だちや教師とのかかわりの中でどう育っていくのかをみていくことがある。幼児が友だちや教師とどのようなかかわり方をしているのか、園やグループの中でどう過ごしているのか、どう変容していくのか、とらえることが大切である。

① 教師とのかかわりをとらえる

教師に話しかけられるか、教師と一緒に遊んでいるか、自分から積極的にかかわらうとしているのか、また教師に近づこうとしないのはなぜだろうか、教師に甘えてくるのはなぜだろうか、教師とかかわり方や教師に対する感情などをさぐることが大切である。

② 友だちとかかわりをとらえる

どんな友だちとどんな遊びができるか、かかわりがもてないのは誰なのか、幼児の気持ちに近づいて幼児の内面をとらえることが大切である。

③ クラスの中での位置をとらえる

クラス全体の傾向としての、興味の方向、活動への取り組み方、友だち関係、情緒の傾向などをとらえることが大切である。

(4) 幼児の動き、言語をとらえる

○ ありのままの行動をとらえる

一人一人の幼児が園生活の中で、どのように興味を示し、どのように友だちとかかわっているか、とらえていく必要がある。

○ 表情の変化をとらえる

遊びに取り組んでいる表情は、その内面の動きにしたがって変化するものである。

特に「目は心の窓」と言われるほど、心の動きを見せるものであるから、幼児の目の動き、かがやきをとらえることが大切である。

○ 言語をとらえる

幼児期は、自分の気持ちを未熟な言語で表現していることがある。教師はその言語を心をこめて聞き取り、幼児の気持ちに近づき、内面の理解に努めていきたい。ひとりごとのように言う小さなつぶやきも大切に聞き取る努力が必要である。

○ 幼児のよさを見い出してとらえる

幼児のよさを見い出してとらえることは、

様々な視点からとらえて、今まで気づけなかったよさをさがし出すことである。

○ 先入観をもたないでみる

教師は幼児を理解しようとする時、多くの資料を参考とするが、それが先入観となって幼児をみてしまうことがある。幼児は常に変容していくものである。多くの可能性をもっている。先入観をもたないでみることは大切なことである。

○ 幼児の気持ちに近づいてみる

幼児がなぜそのような行動をとるかを察し、理解していくことが大切である。

○ 幼児のとりまく環境をとらえる

幼児は育った地域や家庭の環境によって、大きな影響を受けているので、地域、家庭環境をとらえることが大切である。

○ 地域の環境をとらえる

地域社会の様子、危険箇所、遊びの様子を家庭訪問などをし、自分の目で確かめる。

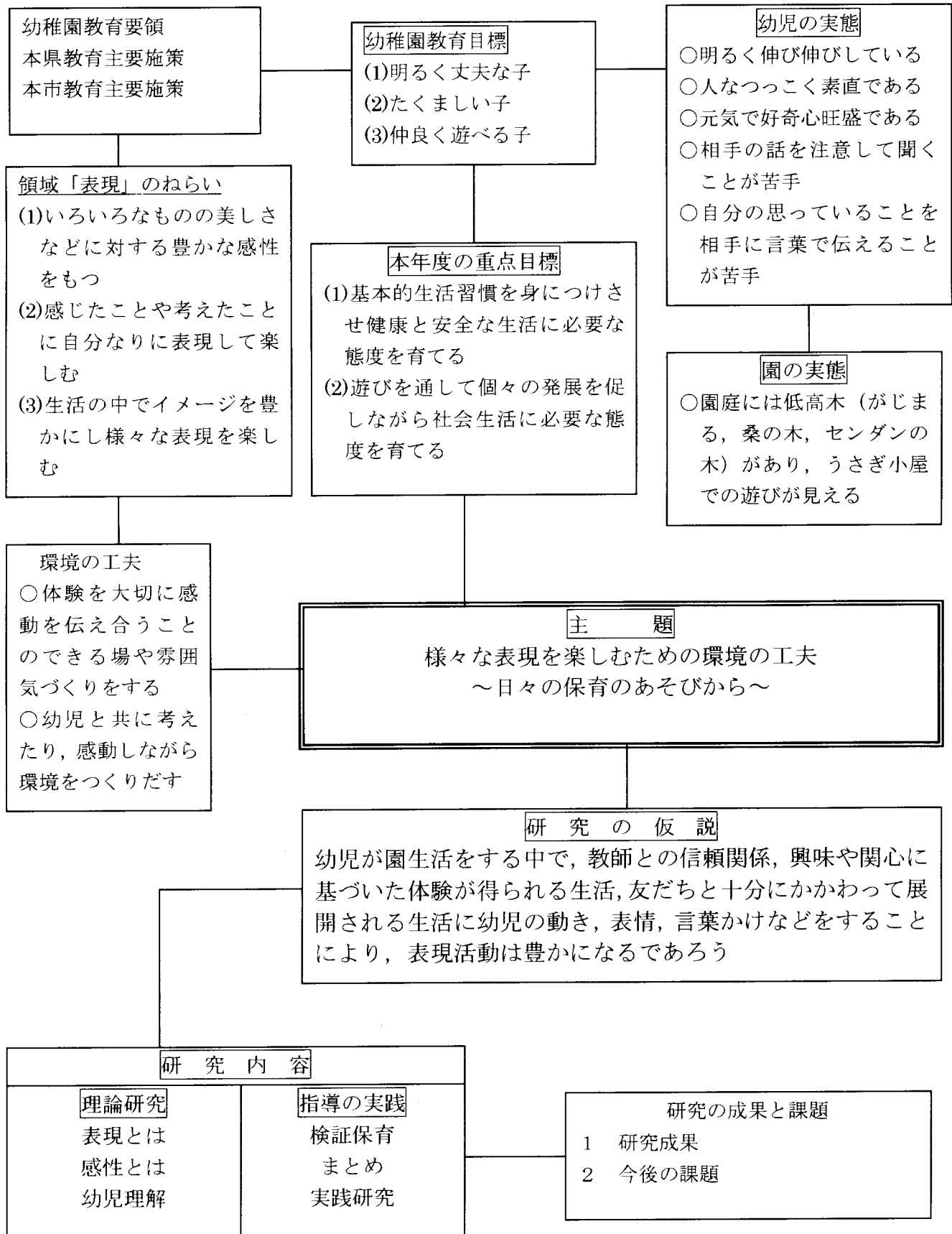
○ 家庭環境をとらえる

幼児が生活している家族構成や人間関係、両親の養育態度などは、幼児の性格形成や情緒の安定に大きな影響をあたえている。

○ 生育歴を知る

幼児が育ってきた過程によって、性格などは大きな影響を受ける。幼児について出産時は異常はなかったか、どんな病歴があるか、とらえておくことが大切である。

V 研究構想図



VI 実践研究
 <保育指導案>

平成16年2月23日(月)
 宜野湾市立普天間第二幼稚園
 指導者 米城 瞳
 1組(34人) 2組(33人)

- 1 活動名 「表現あそびを楽しもう」
- 2 ねらい
 - (1) 友だちと表現する楽しさを知り仲良くかかわる
 - (2) 仲間づくりのとき、入れない子どもも声かけをする
 - (3) あそびの中で数をわからせる
- 3 内容
 - (1) 歌をうたう
 - (2) 動きのリズムで表現する
 - (3) 合図でグループをつくる
- 4 活動について
 - (1) 仮説

集団リズムあそびを経験させることによって友だちとあそぶ楽しさ、いろいろな人また、「頑張ったね」「すごいね」と、お互いに共感し、感動できるような体験を重ねていく中で、自分で考え行動することができるように育てていく。

5 保育の展開

時間	幼児の活動	教師の援助
8:30	登園 所持品の始末をする おたより帖のシールを貼る 絵本を返却する 室内あそび (ままごと, まりつき, 積み木, 絵本, こままわし, なわとび, 一輪車)	○明るく元気にあいさつができるように声かけする
時間	幼児の活動	教師の援助
	戸外あそび (サッカー, 砂場, 二輪車) うさぎ小屋 お当番が清掃する 水かえ, エサをやる 片付け 部屋に入る全体で集まる(遊戯室) 子ども朝会 今週の約束(靴はきれいに直す)	あそびに使った物はもとの場所に戻す 今日のお休みしらべを子どもたちに報告させる 検証保育の話をし, お客様(中曽根先生, 英司先生, 伊波先生, 照喜名先生)の紹介をする

	<p>みんなで歌おう (えんどうの花, おひなさま) 今日のニュース「いちごの実」</p> <p>「表現あそび」をする 曲に合わせて, すきなように, すきな所に歩く</p> <p>9:30 笛の合図でグループをつくる 曲を聴いて踊る 歌いながら, 踊る</p> <p>もとの場所に戻る</p> <p>9:45 子どものリクエスト 「エイサー」を踊る</p> <p>子ども朝会 「終わります」の「ごあいさつをする</p> <p>11:00</p>	<p>静かに話しが聞けるようにする</p> <p>元気よく歌い, あたたかい雰囲気がつくれるようにする 幼稚園のいちごに実がつけました</p> <p>歩く時の注意 つま先, 走らない, 友だちとぶつかるよける</p> <p>7曲を準備する (天使のパンツ, ひよこりひょうたん島, おじい自慢, とんでいった麦わら帽子, 花咲き山, テクノダック, ズンドコ節)</p> <p>子どもたちから「エイサー」と「おじい自慢」があがり, ジャンケンの3回戦で決めるエイサー曲「あしびなー」に決定</p> <p>エイサー曲「あしびなー」の準備をする たいこ, パチ</p> <p>クラスごとに部屋に戻る</p>
評価	表現する楽しさを, 協力してあそぶことができたか	

6 評価の観点

活動	評価の観点	育てたい力
子ども朝会	元気よくあいさつができる	基本的態度
表現あそび	楽しく歌うことができる	表現力
	人の話を静かに聞くことができる	基本的態度
	グループの人数がわかり活動することができる	共同心, 協調性
	リズムに合わせて楽しく踊ることができる	表現力
	きれいに片付けることができる	共同心

7 検証保育の指導助言

- 「表現あそび」はチームワークがとれて子どもたちが活発で表現活動が見えてる。
お互いに参加する授業(チームテッチング), グループをつくる時に人数がたりなくて園長先生が入ってくれた。これは支援活動である。
- 「表現あそび」終了後, 子どもたちのリクエストがあり, 意見が二つにわかれた。「おじい自慢」「あしびなー」のリーダーが三回戦のジャンケンで決めた。これはゆずりあうということでも良い。

- エイサーの準備に職員のチームワークが良い。日頃の整理、整頓がきれいにされている。
- 「たいこ、バチで音をださない」命令口調
でなく、説明を詳しくすると音を出す子どもはいなくなると思う。
- 子どもの満足感、気くばりも良い。
- 子どもに対する言葉かけ、子どもの目線をもっと気をつけてほしい。
- 歌う基本的姿勢を身につけさせ、必ず最後は「ほめること」を常に忘れてはならない。
- 今日みえてるお客さんの感想も子どもたちに聞かせるのも励みになる。
- グループづくりの時、「この友だちはいや」というものがみられたので友だち関係も頭にいれてどの友だちともグループがつかれるように指導が必要である。
- あそびの中から文字や数字を覚えさせることができる。
- 子どもたちが自信をもってやっている。日頃の保育の積み重ねがあらわれ子どもたちが生き生きしている。

8 検証保育の反省

一学期には、教師を中心に、教師のまわりでのあそびがおおかった。二学期、三学期になると、あそびが一人立ちを始めたように思う。

これは一学期の経験、教師との信頼関係、興味や関心に基づいた体験が得られたこと、友だちとかがわった環境の充実からつくられたように思う。子どもたちは常に動いているし、ほっといても子どもは成長する。本当にそうかもしれないが、一人立ちの時期、時期に教師の見方、援助ひとつでいろいろな表情を見せてくれる。何事も経験して、次の活動がうまれてくるということを感じました。

※実践資料

①「みんなで園歌を歌おう」

4月に66人の園児が入園してきました。入園式、園歌がテープでながされ園長先生が歌っていました。園児の表情はなんの興味もない顔でした。職員2人はじめて聞く園歌です。市内の幼稚園は8園あり、園歌があるのは4園です。(嘉数、長田、宜野湾、普天間第二)

子どもたちに園歌を覚えさせるために、自由あそびの時間にテープをながし常に聴かしていた。運動会をさかいに園歌を口ずさむ雰囲気のみられた。子ども朝会に園歌をとりいれ、全員が覚えることができ、幼稚園の園児であるという自覚がみられ、始業式、終業式、行事の時に歌うことの大事さがわかり、幼稚園の一員だという意識がでた。園全体のまとまりを感じた。

②「せみ」

園のまわりにホルトの木、がじまるの木、センダンの木があり子どもたちが木のぼりのさかんな場所でもある。園はクーラーが入り、暑い日はなかなか外に出ず室内であそぶことが多い。

6月後半からせみの声が聞こえ、男の子たちは、虫とりをもって外へでる。

せみはホルトの木、センダンの木によくいた。「いた」「いた」せみをつかまえ、僕はたくさんつかまえたよと自慢げに話していた。毎日、毎日、せみとりが盛んになり時間をわすれることがある。子ども朝会でせみとりの注意ういし、雨ふりの後は、木にのぼらないと約束をした。毎朝、せみの歌のテープをかけ、オルガンにあわせて歌う。男の子たちが図鑑で「せみ」を調べ、「せみはね、めすが木に卵を産んで幼虫になり、その幼虫が木からおりて土の中でくらし、5年間もずっといるんだって(あぶらぜみ、みんなぜみ)それがやっと地上にでてきて、高いところの木に殻をぬいで成虫になり、2、3、週間生きるだって、人間みたいにいられないのはかわいそうだね。」幼稚園のせみは「あぶ

らぜみはじー，じー，じーとなき，みんなぜみはみーんみんなん・・・みーとなくんだよ」それ以後，せみを見つけるが前回みたいに取ることはなく，逃がす程度になってきた。

先生の小さい時の虫取りはね「画用紙を丸めて棒につけてとったんだよ。」

それから，絵画制作に発展し，折り紙でせみをつくり「おとうさんぜみ」「おかあさんぜみ」「あかちゃんぜみ」をつくりました。そのままではかわいあおうね，おうちをつくろうよ。クレヨンで木を葉っぱを描きました。子どもたちはせみの歌を口ずさみながらせみを壁面にはりつけていきました。幼稚園もせみ一色になり，夏らしい雰囲気になりました。それから子どもたちは戸外にいろいろな虫を探検に行きます。

「先生，はやくきて」子どもたちが呼びにきました。がじまるの木のくぼみに細長い模様の入ったものがあります。「ハブだよ」「はぶだよ」見てみると，確かに長いものである。その日はスルスルと逃げていきました。2日後にまた同じ場所にあられました。市の衛生課に連絡し「ハブ取り器」を2ヶ所におきました。1週間たってもかかりませんでした。その後の指導として気がおいしげっているので常に太陽をいれるように。奉仕作業で木の枝を切り落としました。子どもたちは「ハブ」のことを図鑑で調べ，幼稚園のハブは「アカマタ」だよ，「心配いらぬよ」自慢げに話していた。

③「夏まつり」

7月になると，地域（新城，3区，喜友名）幼稚園，小学校，青年会，婦人会，老人会と一諸に夏まつりが開かれました。子どもたちも「きよしのズンドコ節」の練習で賑わい，保育参観で親子ダンスの練習をしました。

父母会も出店に参加し，だんごゼリー，かき氷，水ふうせんをつくり絵本購入資金にしました。子どもたちが地域行事に参加することによって感謝の気持ちや思いやりの気持ちが育つ場となるチャンスができ，父母，地域の人々とのかかわりもふかまり，ふれあう楽しさや，人々のよさ，やさしさ，素晴らしさを知ることができました。

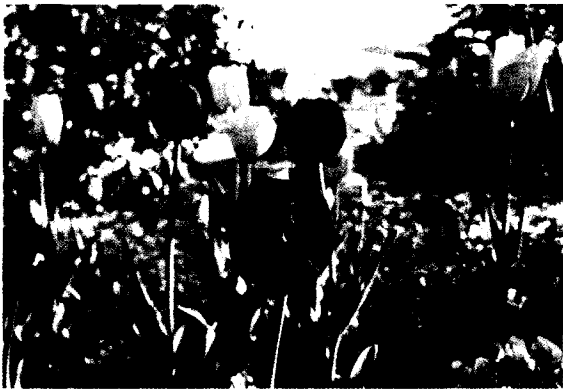
地域に対しての幼稚園の理解，幼児，教師に対する親近感，地域の教育力があり，保護者の子どもとのかかわり，園行事の関心と理解，教師，地域の人々との親近感があり好評だと思う。

来年も楽しみにしています。

④「うさぎ小屋」

幼稚園での生活は環境を通して行うものであることをふまえて自然との触れ合いを大切に考え，その中で豊かな感動体験をすること，子どもたちの当番活動のひとつにいれている。

クラスごとに当番をきめ，家庭から，エサの協力をしてもらい，うさぎをだっこしたり，エサを上げたり，掃除をしている。おいもの葉っぱもよく食べるよね。たんぼもたべてるね。園庭からたんぼぼをつんできてうさぎに与えている。うさぎも自分たちと同じ中間である。だからやさしく大切にしなければならぬことを自覚して当番活動にはげんでいる。



園庭には、みんなで世話したお花が咲きました。
みごとに咲いたチューリップ



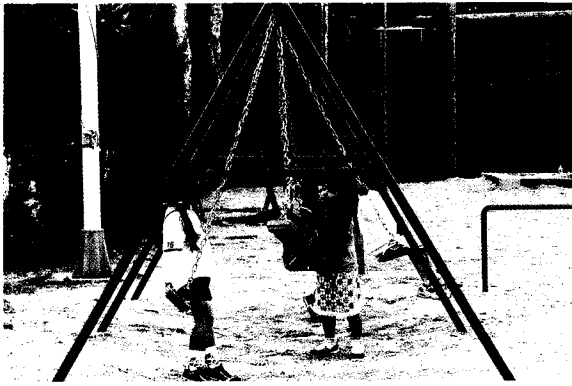
みんなでおひなさまかざりました
3月3日は桃の節句です。おひなさまも3番までしつかりうたえます



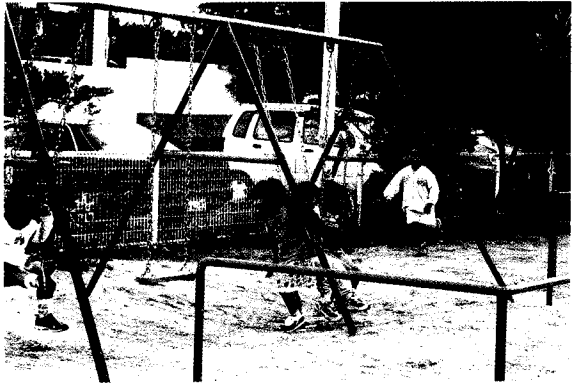
砂場あそび（おだんご、お山、トンネル）も作ったよ



男の子に人気あるサッカー



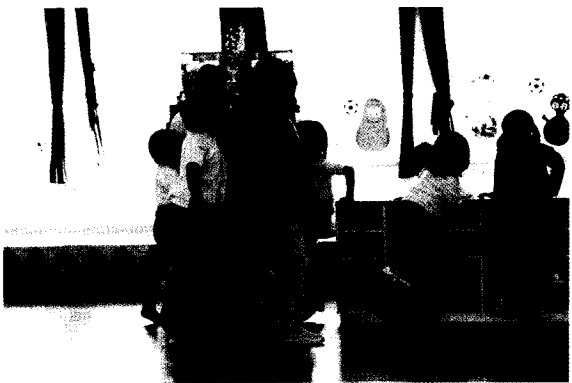
何話してるの、トラブルかな、



もとどおりになった。



なわとび、子どもたちがいます。1月あそびも
2, 3月まで続きます。子どもたちの興味、関
心が続くまで



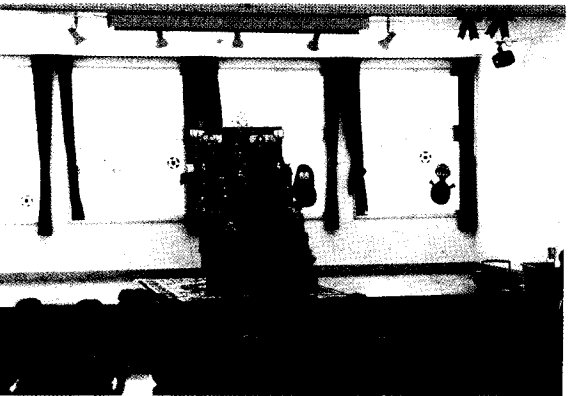
一輪車の指導が先週ありました。女の子もた
ちが多く一生懸命です。



きれいに洗って砂もきれいにする。



だいぶはやく片付けられたよ。



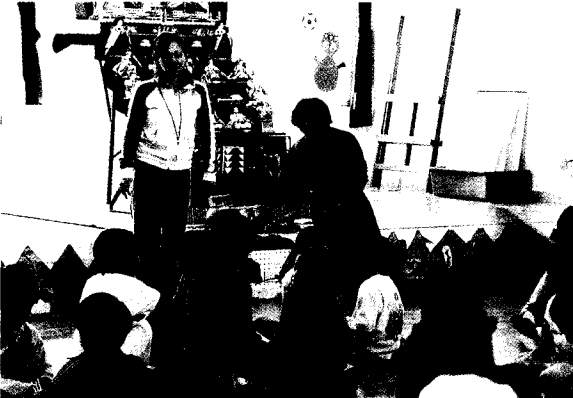
子どもたちの場面です。
今年から混合名簿を作って初めての試みである。
座り方お山すわりです



これから、えんどうの花、おひなさまをうたいます



曲にあわせて
つま先で
友だちとぶつからないように歩きます
速い曲ははやく，遅い曲はゆっくりと
あかちゃんはハイハイと



グループつくれたよ
次は何の曲かなあ



不満そうな顔
友だちを選んでもの
はやく，人数をそろえてすわろうよ



あかちゃんのハイハイ
おかあさん さがしてどこかなあ



人数そろった
多い数ほど時間がかかり大変です



子どもたちから2曲がだされ、3回戦のジャンケンで決定
えいさー「あしびなあー」



今日のアそびはどうだったのかなあ
「楽しかった」「もっとやりたい」
長い時間、過ごすことができました

Ⅶ 研究の成果と課題

1 研究成果

- 幼児と心が通じ合う楽しいひとときができた。
- 教師間の信頼関係のチームワークがとれ全園児にかかわる保育ができた。

2 今後の課題

幼児の表現とは外に表われた言動だけでなく、幼児は心の内面（意欲、充実感、イメージ、感動、知的、好奇心、発見、工夫）をとらえ教師は、その幼児の気持ちに近づき、しっかりと受けとめて、幼児が何を感じ、何を考え、何を望んでいるのかをとらえることが大切に思う。常に幼児を「認める」「ほめる」「はげます」の三点をしつかりと身につける。

終わりに

幼稚園につとめて31年になりました。10月から園をはなれ、今までの保育を振り返り、反省をもとに研究課題に向け、心機一転を決めました。毎日毎日が自分との戦いで、計画を立て、時間とむかいあう生活である。多くの先生方に出会い、いろいろな本が読めた事（特に琉球歴史）、パソコンにも出会い、その操作も何とか先生方の力をかり、できるようになりました。

その期間中、個人的にいろいろな問題をかかえ涙をながした日もありました。3月までは自分に与えられた仕事は最後まで「なんくるないさ」の精神でいくのが一番よいのかなあと、終了間近にホットしています。その苦しき時、宮城所長、新田次長、新垣係長にご迷惑をかけ、お世話になり、現在にいたっております。

検証保育の際は、安里園長、何かと力となってくくださった第二幼稚園の先生方（中間、宮城、泉、ゆかり先生）本当に頭がさがる思いでした。

指導助言をいただいた中曾根初枝先生、いろいろな面で話し相手になってもらった研究教員の先生方に感謝を申し上げます。

研究所でしか味あえないものがたくさんあります。4月に入所予定の先生方を歓迎します。

この6ヶ月間、はげまし、協力してくれた息子にありがたく思います。

園にもどって、子どもたちと活動できる日を楽しみにしています。今後とも皆様方のご指導をよろしく申し上げます。

<参考文献・主な引用文献>

『幼稚園教育要領解説』文部省 1999年

黒川健一・高杉自子編 『保育内容「表現」』ミネルバァ書房

西久保礼造・土屋かつこ共著『音楽リズム表現（動きによる表現の指導）』ぎょうせい 1982年

西久保礼造、青木久子共著『音楽リズム表現（歌による表現指導）』ぎょうせい 1983年

片岡徳雄『心を育て感性を生かす』黎明書房 1998年